

ヘリングの治癒の法則（ガイドライン）

レメディの反応を評価するのに欠かせないものが「ヘリングの治癒の法則」です。初回に投与したレメディの査定は、この「ヘリングの治癒の法則」に沿っているのかどうかを確認して行く作業と言って良いでしょう。

1) 中枢から外側へ

ー重要な器官から重要でない器官へ（例：喘息が改善した後に湿疹が出る）

ー心から身体へ（例：まず気分が良くなり、その後身体症状が改善する）

病が進展するとき、症状が「表面的な」ところから「深い」場所へ動いていくのなら、治癒するときにはその反対の方向に進むはずです。これが「中枢から外側へ症状が動く」ということです。

2) 新しい症状から古い症状へ（現れた時とは逆の順序で症状が消えていく）

（例：主訴の頭痛がなくなった後に、子どもの頃にした骨折の痛みが出た）

古い症状は消え去るのではなく、新しい症状へ姿を変えていたのだということかもしれません。

3) 上から下へ

（例：顔の湿疹が消えて、首を経て、腕や足に移動した）

レメディ投与後にこのような流れで症状が出てきているなら良い方向に進んでいると考えられます。その逆だと悪化する方向に進んでいる可能性があります。重要臓器の多くは上半身にあることも関係しているかもしれません。

またこれは皮膚科領域では古くから知られている事実だそうです。

※注意点

1. 「ヘリングの治癒の法則」が常に完全にあてはまるとは限りません。治癒する順番が変わることもあります。レメディによる反応が良い方向に進んでいるかどうかは、個々の症状の改善度だけではなく、患者さんの全体的・総合的な判断（健康観）が決め手になります。

2. 治癒の過程で起きて来る様々な一時的な症状や古い症状が再現してくると、多くの患者さんは「再発した」と悪くとってしまうでしょう。ホメオパスは「レメディが正しければ古い症状等が一時的に出てくることがあります。それは歓迎すべきことです。なるべく薬などで抑制しないようにして下さい。」と伝えておく必要があります。

3. またある症状が出たときに、本人が過去の症状かどうかを覚えていないということもあります。はっきりしないときはその人の親御さんや親戚に子どものころにあった症状かどうかを確認してもらう必要も生じます。